

ホームページリニューアルの コンセプトについて

現在の問題点

- ・スマートフォン・タブレット端末に対応していない。
- ・目的のページにたどりつけない。
- ・よくある質問から他の関連ページが見れない。
- ・岩倉市がこんな市であるということが分からない。
- ・今伝えたい情報が何であるのか分からない。
- ・全体の文字が小さい。トップページに文字が多すぎて、何を見ればよいか分かりづらい。
- ・文字拡大など高齢者向けの配慮がない。
- ・コンテンツ管理ソフト(CMS)で管理できるページ数に制限があるため、数種類の情報を1ページに連続で掲載せざるを得ない。その結果、縦に長いページになっており、見にくい。

問題に対する改善案

- ・スマートフォン・タブレット端末への対応
- ・カテゴリの見直しや様々な入口から情報へ辿れるようにする等、誰もが目的のページへ迷わずにたどりつけるよう設計。
- ・子育て向け、高齢者向けページの創設やトップ画面において現在のトピックスを画像を使い大きく見せる等、効果的な情報の発信。
- ・アクセシビリティに配慮し、みんなの公共サイト運用モデル(総務省)に示されている、国際規格JIS X 8341-3:2010の等級AA以上への対応
- ・ページ数の上限をなくし、1ページをシンプルなページとすることにより、読みやすさを向上させる。

リニューアルのコンセプト

①誰にとっても使いやすい

- ・スマートフォン・タブレット端末への対応
- ・カテゴリの見直し、様々な入口から目的の情報へ辿れるように設計
- ・ウェブアクセシビリティの向上
(国際規格JIS X 8341-3:2010の等級AA以上への対応)
- ・CMSで管理するページ数制限の撤廃

②シティプロモーションを意識した情報発信

- ・トップ画面でトピックスの強調
- ・特設ページの作成(子育て世代向けまとめページや高齢者向けページ)
- ・さくらいふとの融合

①誰にとっても使いやすい

■スマートフォン・タブレット端末への対応

スマートフォン・タブレット端末対応のサイトのメリット

- ・横スクロールがない
- ・リンク等が押しやすい(指で押せる面積が広がるため)
- ・フォームの入力がしやすい
- ・手軽にアクセスできるので、情報の取得・送信が容易

(岩倉市の現状)

- ・岩倉市ホームページはスマートフォン・タブレット端末対応がされていない。
- ・訪問者の4割はスマートフォン・タブレット端末からのアクセス。(期間:平成27年4月1日~1月11日)

(愛知県内の対応状況:平成27年12月末現在)

対応済み:25自治体 未対応or対応予定:29自治体(岩倉市含む)

①誰にとっても使いやすい

端末別インターネット利用率(平成25年末現在)

(総務省調べ)

	平成24年末	平成25年末
自宅のパソコン	59.5%	58.4%
自宅以外のパソコン	34.1%	27.9%
携帯電話(従来型)	42.8%	24.5%
スマートフォン	31.4%	42.4%
タブレット型端末	7.9%	12.4%
インターネット利用率 (全体)	79.5%	82.8%

★パソコン、携帯電話(従来型)によるネット利用は減少し、
スマホ・タブレット型端末によるネット利用は急増

→パソコンによる閲覧を前提としているため、スマートフォンで利用するブラウザによっては表示が崩れてしまうおそれ。

①誰にとっても使いやすい

■カテゴリの見直し

例

・利用者が目的の情報に到達しやすいよう分類を変更

(変更前:岩倉市について、くらしのガイド、学ぶ・遊ぶ、産業・ビジネス、まちづくり)

(変更後:くらし、教育・スポーツ、施設、イベント、市政、事業者)

・カテゴリにカーソルを合わせると詳細な項目がプルダウン式に出るように表示

⇒ページ移動を省略することができ、スムーズにストレスなく検索することができる。

カーソルをあてると詳細な項目が出てくる。



①誰にとっても使いやすい

■様々な入口

例

・すべてのページにカテゴリ別のタブを表示、トップページ中央にサイト内検索、その下にライフステージ別検索、右によくある質問、その下によく見られているページを配置

⇒検索の仕方の幅を増やすことで、利用者の様々な使い方に対応することができる。

・目的の情報に辿り着く経路を増やす

(例)市民ミュージカルのページにカテゴリから辿り着きたい場合

現状:まちづくり>音楽のあるまちづくり>市民ミュージカル と進まなければならない。

リニューアル後:「学ぶ・遊ぶ」や「観光・イベント」からも辿り着くことができるように改善。

利用者の視点に立った検索性・操作性の高いホームページにする。

①誰にとっても使いやすい

■ウェブアクセシビリティの向上

(国際規格JIS X 8341-3:2010の等級AA以上への対応)

・音声読みあげ、文字サイズ変更、色変更を可能にする

⇒高齢者や障害者でもホームページから提供される情報や機能を支障なく快適に利用することができる。

現状：公開されている全ページのうち、等級Aに問題のあるページの割合 53.72%

等級Aに問題のあるページの割合は、県内37市中20番目

(調査期間：2015年3月20日～4月7日)

(アライド・ブレインズ株式会社調べ)

①誰にとっても使いやすい

■CMSで管理するページ数制限の撤廃

- ・事業や業務の増加に伴う情報公開の増加に対応する。

◇現状ではCMSで管理できるページが500ページという制限の中で運用しており、新規事業等で新たにホームページを作成する場合は担当課で所有するページを統合もしくは削除してもらって作成している状況である。そのため、1ページが縦に長くなり、詳細ページに入っても目的の情報にすぐに辿り着けないことがある。

⇒ページ数の上限をなくすことで、1ページをシンプルなページとし、読みやすさを向上させる。

(参考)

平成27年12月末現在 494ページ

②シティプロモーションを意識した情報発信

■トップ画面でトピックスの強調

・トップページ上部で画像を大きく使い、視覚に訴える情報を提供する。

⇒従来のトピックスが比較的下部の配置になるが、スライド形式の画像で伝えることで市が今一番伝えたいことを伝えることができる。

⇒トップページのデザインについても画像が大きく入ることで、見た目がよくなる。

(参考)

トピックスを強調したデザイン: 愛知県内 18自治体

(例)

弥富市



豊田市



小牧市



②シティプロモーションを意識した情報発信

■特設ページの作成

・子育て世代、高齢者世代に向けた情報をまとめたページを創設。

⇒岩倉市が掲げる「子育て世代住みたいまちNo.1」に基づき、子育て世代にとって情報を集めやすい(岩倉らしさを出す)ホームページにすることができる。また、高齢者向けページをつくるなど、ターゲットを絞ることで、利用者がどのページを見ていいかわからないようにする。

■さくらいふとの融合

・「さくらいふ」と市のホームページの融合を図り、「さくらいふ」は桜の情報ははじめとした観光情報を主軸において市の魅力を発信し、どんな市であるかを市外の人に知ってもらうサイトへ。

特設サイト・ページの例(春日井市)

世代別ページ、市の魅力発信サイトを常設

